報告

看護師を対象にしたe-learning研修前後での入院患者車椅子座位姿勢の変化

本間義規† 池田竜士* 石井光子** 河野英美 藤谷順子

IRYO Vol. 73 No. 10（449－453）2019

要旨 国立国際医療研究センター（当院）は急性期病院であり，入院後廃用症候群や呼吸器合併症の予防を図り早期自宅復帰を目指している．そのため早期から看護師による車椅子への移乗が積極的に行われているが，患者の体幹筋力の低さなどにより車椅子上姿勢が崩れた不良姿勢になっている患者もみかける．

今回，看護部とリハビリテーション科が協働し基本的な車椅子座位姿勢について院内の全看護師を対象に伝達することを考えた．その手段としてe-learningを用いることで多くの看護師に座り方の知識を普及し，その結果として患者の車椅子座位姿勢が改善するかについて検討した．

方法は，e-learning教材「普通型車椅子の基本的な座り方」を作成，20日間配信し受講を呼びかけた．e-learning配信前の３週間と，配信後の３週間にリハビリテーション科に搬送された入院患者の座位姿勢を評価した．座位姿勢を評価する患者の条件は，普通型車椅子での座位保持ができ，かつ自力で除圧・座り直しのできない症例とした．座位姿勢の評価はチェックシートを用いて「座面クッションなし」,「ずっこけ座りをしている」,「フットレストの高さが合っていない」,「骨盤の回旋・傾きがみられる」の４項目をYes／Noでチェックした．

結果，e-learning配信期間中の看護師による受講は786名中684人で87％であった．「ずっこけ座りをしている」症例の割合は，21.6→8.1％へ有意に減少した（χ^2値5.87 p＝0.015）．その他の３項目の有意な差はみられなかった．

「ずっこけ座りをしている」患者が減少したことは，褥瘡や生理機能の悪化を予防することに貢献できたと考える．

今後も引き続き，よりよい車椅子座位姿勢を目指すとともに多職種協働を図っていきたい．

キーワード　急性期病院，車椅子座位姿勢，e-learning（インターネットを利用した学習形態），多職種協働

国立研究開発法人　国立国際医療研究センター病院　リハビリテーション科，＊国立病院機構東京医療センター　リハビリテーション科，＊＊国立研究開発法人　国立国際医療研究センター病院　看護部　†理学療法士
著者連絡先：本間義規　国立研究開発法人　国立国際医療研究センター病院　リハビリテーション科
〒162-8865　東京都新宿区戸山１-21-１
e-mail：yhonma@hosp.ncgm.go.jp
（2019年４月15日受付，2019年９月13日受理）

Changes in inpatient wheelchair seat posture before and after e-learning training for nurses

Yoshinori Honma RPT, Ryuji Ikeda RPT, Mitsuko Ishii CN, Hidemi Kono RPT and Junko Fujitani MD, PhD, Department of Rehabilitation, National Center for Global Health and Medicine, ＊Department of Rehabilitation, NHO Tokyo Medical Center, ＊＊Department of nursing, National Center for Global Health and Medicine
（Received Apr.15, 2019, Accepted Sep.13, 2019）
Key Words：acute phase hospital, wheelchair seat posture, e-learning（Learning form using the internet）, multiple cooperation